

(1) 子どもたちが安全・安心に学べる学校					
本年度の努力事項			具体的な取組		
① 学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ② 生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ③ 教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。			○行事や体験活動等の実施の際に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。 ○毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。 ○適時に訓練を実施し、危機管理マニュアルの理解と改善を行う。		
		質問内容	判定		R3 中間
教職員	①	目指す姿を達成するための教育活動を実践している。	A	100.0%	A 100.0%
	③	生徒の様子の小さな変化にも気付くように意識している。	A	100.0%	A 100.0%
	④	各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	A	93.3%	A 100.0%
	⑤	危機管理意識を持って教育活動を行っている。	A	100.0%	A 100.0%
	⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	A	93.3%	B 80.0%
生徒	B3	学校へ行くのは楽しいと思う。	A	88.7%	A 86.3%
	B4	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	A	99.2%	A 95.7%
保護者	①	お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	A	93.7%	A 94.1%
	②	学校は、生徒の安全を守るために努力している。	A	97.8%	A 92.6%
	③	学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	A	93.6%	A 84.6%
	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	100.0%	A 86.0%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	95.8%	A 85.3%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

【考察・改善】

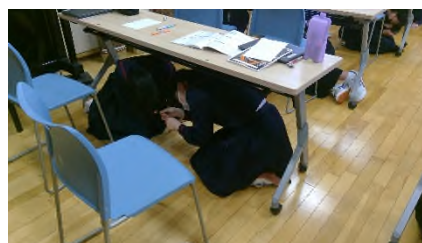
◎珠洲市を震源とする地震が多発しているため、地震対応の避難訓練を4月下旬に前倒しして実施し、5月には、不審者対応の避難訓練を行った。非常災害時の安全について考えさせる機会を持つことができ、職員の指導の意識を高めることができた。

◎日頃から、生徒の変化を見逃さないようにアンテナを高くして生徒に接している。いじめアンケートやQUテスト(学級の分析ツール)などを行い、いじめや不登校の未然防止にも努めている。学期に1回、教育相談を行い、希望した教員と面談することで、悩みを話しやすくするなど、相談環境を工夫して行うことができた。

△学校としては、いじめや不登校の未然防止に力を入れ、早期発見・早期対応を行っている。関係生徒・保護者との面談・連絡を取り合い、現状の共通理解・対応に努めている。

参考 いじめ認知件数 3件 不登校生徒数 3人

◀防災学習・・・避難訓練▶



◀不審者対応避難訓練▶



(2) 生徒の確かな学びを保障する学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① 生徒一人一台端末を積極的に活用し、個別最適化された教育の実現に努める。			○積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。			
② 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。			○生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。			
③ 体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科横断的な学びを推進する。			○体験活動等の目的やねらいを明確にし、活動後にその成果を実感させる。			
		質問内容	判定		R3 中間	
教職員	②	学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑧	各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	A	86.6%	A	93.3%
	⑨	個別最適化された学びの実現に向けて工夫している。	A	93.3%	A	92.9%
	⑩	授業では、積極的に学び合い活動を取り入れている。	A	100.0%	A	93.3%
	⑪	学び合い活動で、生徒は学び楽しさを感じている。	A	93.3%	A	86.7%
	⑫	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	B	73.3%	A	86.7%
	⑬	自然や社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	A	86.6%	A	92.9%
	⑭	授業では、生徒一人一台端末を積極的に活用している。	A	86.6%	C	53.3%
	⑮	体験学習・総合的な学習の時間で、教科横断的な学びを関連づけている。	A	93.3%	A	93.3%
	⑯	授業の約束4か条を意識し、指導している。	A	93.3%	A	100.0%
⑰	生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	B	80.0%	A	86.7%	
生徒	A1	授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	A	92.7%	A	91.4%
	A2	授業では、自分の考えを発表する場面が与えられていると思う。	A	92.7%	A	89.2%
	A3	授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	A	95.2%	A	95.0%
	A4	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると思う。	A	97.6%	A	96.4%
	A5	授業では、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると思う。	A	87.1%	B	85.6%
	A6	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	A	85.5%	A	87.8%
	A7	学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	A	99.2%	A	94.2%
保護者	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	A	85.1%	B	82.4%
	⑦	お子さんは、毎日1時間以上の家庭学習をしている。	C	66.0%	C	61.0%
	⑨	家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノ（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	C	65.9%	D	42.6%
	⑩	家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	C	66.0%	B	73.5%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

【考察・改善】

◎授業においては、感染対策を行いながら、通常の授業を展開している。生徒が自分の考えを持ち、学び合う活動を取り入れることで深い学びにつなげる取組を共通実践している。生徒もその学習スタイルに慣れている。2学期は正しい言葉を使って考え、表現する力の育成を目指して授業実践を行っていく。

△生徒の1人1台の端末については、定期的に研修を行い、実践の交流をしている。教師間、教科間によって利用状況に差があるのが課題である。授業の中で、効果的に利用できることを共通実践していく取組を積み重ねていきたい。

△家庭学習の量については、今年度も大きな課題である。34%の生徒が1日1時間以上の学習習慣がない。毎日の宿題を提出することすら、ままならない生徒も一定数いる。家庭でのインターネットの利用時間が多いことと関係が深く、その時間をいかに学習へと向けていくかが課題である。生徒が自主的に進めていけるように課題の計画表を掲示したり、授業と関連した宿題をだしたりと、内容を工夫することで家庭学習時間の量を増やし、家庭学習の習慣を身に付けさせたい。

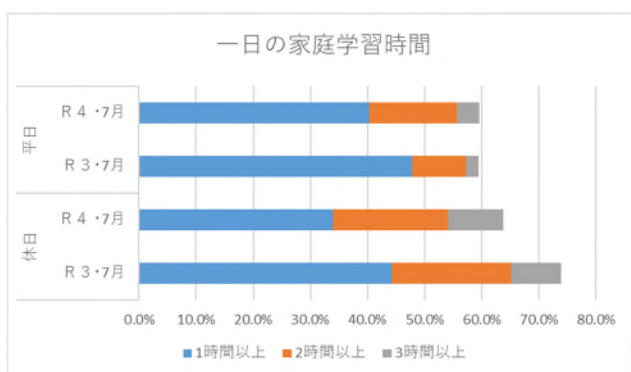
《研究授業・・・学習スタイルの実践》



《GIGA 校内研修・・・金沢星稜大学 清水先生》



《生徒の家庭学習の状況・・・アンケート結果》



《3ノーの結果・・・期末テスト期間の平均》

	1年	2年	3年	全校
テレビ	73.2%	80.9%	90.9%	81.6%
ゲーム	87.9%	64.7%	93.0%	81.9%
SNS	81.6%	58.4%	91.7%	77.2%

※5/18～25の8日間

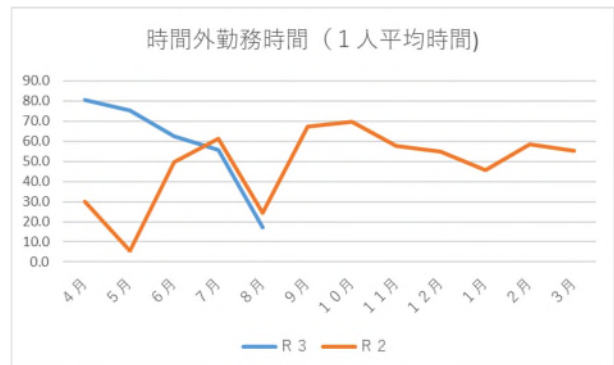
(3) 教師の研修意欲が高い学校					
本年度の努力事項			具体的な取組		
① ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。 ② 人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。 ③ 日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。			○日々の業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。 ○授業中、生徒を指名する際は呼び捨てにしない。 ○報告・協議事項は事前に紙またはサーバー内で文書化し、周知する。		
		質問内容	判定		R3 中間
教職員	⑮	日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	A	93.3%	A 93.3%
	⑯	校内研修は指導法の工夫・改善等に役立っている。	A	93.3%	A 100.0%
	⑰	授業中、生徒を指名するときは呼び捨てにしていない。	A	86.7%	B 80.0%
	⑱	報告・協議事項は、全員に周知されている。	B	73.3%	A 86.7%
生徒	B1	自分にはよいところがあると思う。	B	80.6%	B 75.5%
	B2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	A	93.5%	A 88.5%
保護者	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	100.0%	A 86.0%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	95.8%	A 85.3%
	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	A	85.1%	B 82.4%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)			

【考察・改善】

◎4月・5月は、校務処理や生徒への対応、学習の準備などに時間が必要となり、退勤時刻が21時を過ぎる若手職員が数名いた。しかし、校務の効率化を進めていることに加えて、20時までに退校するように取り組んでいく。今年度は、感染防止に留意しながら通常の教育活動を行っている。安全対策と校務の効率化を進めながら、教育活動を行ってきたい。

◎授業や行事などで生徒一人一人が活躍する場を設定し、自己肯定感を高められるようにしている。褒めることでやる気を伸ばし、挑戦させ、成功体験を積ませることで自己肯定感を伸ばしたい。

《職員の平均時間外勤務時間》



《集団行動》



《能都中検定の実施》



(4) 地域社会の一員として信頼される学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① 学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。			○月2回以上、学校HPを更新する。			
② 学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。			○学校評価結果を学校HPで公開する。			
③ 地域人材や施設を積極的に活用し、社会に開かれた教育課程の構築を進める。			○各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。			
質問内容			判定		R3 中間	
教職員	⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	D	46.7%	B	73.3%
	②②	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施(予定)している。	D	46.7%	B	73.3%
	②③	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	A	86.7%	B	80.0%
保護者	①①	教職員は、保護者との連携を密にしている。	A	95.7%	B	72.8%
	①②	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは十分である。	A	93.6%	A	90.4%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

【考察・改善】

◎地域社会の一員として信頼される学校として、情報の公開に努めている。特にホームページの更新は、写真を交えながら頻繁に更新し、学校での教育活動を紹介している。一日で約500件の閲覧数がある。

◎コロナ禍ではあるが、感染防止対策の徹底を図りながら、地域の事業所の協力を得て、職場体験活動を実施することができた。(町内13事業所) また、海洋教育の一環として町の施設を訪問する計画をしている。今後、道徳で地域の方をゲストティーチャーとして招聘したり、キャリア教育や有権者教育などで外部人材を活用したりしていく予定である。

△毎朝、「おはようございます。」と進んで挨拶できない生徒には、教職員の方から声をかけることを行っている。元気にあいさつができるように根気良く取り組んでいきたい。

△今年度も、コロナ禍のためPTA総会が開催できなかった。しかし、授業参観は学年毎に行なうなど、少しでも保護者の皆さんに学校での生徒の様子を見ていただく機会を増やしている。また、体育祭では、問診票の提出を条件に家族の入場制限をなくした。学校だよりや学級通信の発行、担任からの連絡を密にすることで連携を深めていった。

《職場体験活動》



《HP》



《救急法・AED講習会・・・日本赤十字社》

